

式典次第

■開会式 第1日 8:50 (集合完了8:45) 集合 各校旗手が整列 (メインスタンドに向かって右より大津商・大津……と4ページ学校順に整列) - 開式通告 - 国旗・高体連・滋賀陸協旗掲揚 - 優勝杯・優勝盾返還・レプリカ授与 - 男子総合 彦根翔西館高校 - トラック 彦根翔西館高校 - フィールド 彦根翔西館高校 - 女子総合 草津東高校 - トラック 草津東高校 - フィールド 草津東高校 - 挨拶 高体連陸上競技専門部 部長 筧美貴 - 競技開始宣言 審判長 - 選手代表宣誓 彦根翔西館高校 清水隆希 - 閉式通告 - 伝達表彰	■閉会式 第3日 (競技終了後) 集合 関係する選手 - 開式通告 - 成績発表 - 表彰 賞状・優勝杯・優勝盾授与 - 大会新記録樹立者紹介 最優秀選手賞授与(男・女) 総合優勝監督賞授与(男・女) - 挨拶 高体連陸上競技専門部 部長 筧美貴 - 国旗・高体連・滋賀陸協旗降納 - 閉式通告
--	---

競技注意事項

- 競技規則について
2025年公益財団法人日本陸上競技連盟規則及び、本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 招集について

- 選手招集は第3ゲートバックスタンド下で実施する。
- 招集開始時刻に競技者係からアスリートビブスとスパイクの確認を受け、競技者係の誘導指示に従う。現地での最終点呼の代理人は認めない。ただし、複数種目を同時に兼ねて出場する選手は、最初の種目の招集完了時刻までに玄関ホールのTICに用意されている「多種目同時出場届」に必要事項を記入し、招集所に提出し、スパイク・アスリートビブス等の確認を受けること。
- 欠場する選手は、招集開始時刻までにV-TIC(バーチャルTIC)にて「欠場届」に必要事項を入力し提出すること。
- 招集時刻(競技開始時刻を基準とする。)

V-TIC



トラック競技予選								
100m・200m・400m			800m・110mJH 100mYH・400mH・4×100m			4×400m		
組	開始	完了	組	開始	完了	組	開始	完了
1～4	25分前	15分前	1～3	25分前	15分前	1～2	25分前	15分前
5～8	15分前	5分前	4～	15分前	5分前	3～	15分前	5分前
9～	5分前	5分後						

トラック	
準決勝・決勝	
開始	完了
25分前	15分前

3000m・5000m・3000mSC・3000mW	
決勝	
開始	完了
20分前	10分前

フィールド	
決勝	
開始	完了
50分前	40分前

- リレーに出場するチームは、その種目(第1組)招集完了時刻の1時間前までにTICに用意されているオーダー用紙に、オーダーを記入し招集所に提出すること。また決勝においてもメンバー、オーダーの変更の有無にかかわらず、オーダー用紙にオーダーを記入し、予選に準じて招集完了時刻の1時間前までに招集所に提出すること。ただし、オーダー提出後の変更については、総務の許可がある場合のみ認める。その場合は「リレーオーダー変更届」を招集完了時刻までに招集所に提出すること。変更する箇所については、変更が認められた走順のみとする。「リレーオーダー変更届」は総務に用意する。

- 携帯電話、スマートフォン、タブレット等の通信機器を招集所・競技エリア内に持ち込むことはできない。

3. アスリートビブスについて

- ①アスリートビブスは必ず胸、背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は胸部または背部だけでよい。
- ②写真判定にともなう腰ナンバー標識は、右側後方につけること。
- ③800m以上の中長距離種目・競歩種目・4x400mRについては全て別腰ナンバー標識を使用する。その際、別腰ナンバー標識は両側の腰につけること。
- ④3000m・5000m・3000mW は別アスリートビブス・別腰ナンバー標識も使用する。別アスリートビブス・別腰ナンバー標識は招集所で受け取り、フィニッシュ後すぐにゴール付近で待機している競技者係に返却すること。安全ピンについては各自で用意すること。なお、1・2年生同時スタートの種目については、下記の表の通りとする。

	2年男子	1年男子	2年女子	1年女子
3000mW	1～5	10～15	6～9	16～19
3000m			1～7	10～19

4. 競技の抽選および番組編成について

- ①予選におけるレーン順および競技順はプログラム記載の順序とする。なお準決勝、決勝の組み合わせ（レーン順、試技順）は全て下記のように番組編成員が行う。
【直線種目（100m・100mYH・110mJH等）】
上位グループ4・5・6・7レーン、中位グループ3・8レーン、下位グループ2・9レーン
【200m】
上位グループ6・7・8レーン、中位グループ4・5・9レーン、下位グループ2・3レーン
【400m・800m・リレー種目】
上位グループ5・6・7・8レーン、中位グループ4・9レーン、下位グループ2・3レーン
- ②800mの予選について、10名の場合は8レーンに2名、11名の場合は3レーン、8レーンに2名、12名の場合は3レーン、6レーン、8レーンに2名入る。2年女子800m決勝においても、同様とする。
- ③タイムによるプラスの決定は、プラスの明示してある人数以内の同記録者数であれば次のラウンドへ進める。プラスの人数を超える同記録者が出た場合は、レーンに余裕があり、写真判定によっても着差が認められなければ、同記録の選手の出場を認める。レーンに余裕がない場合は、本人または代理人の抽選により次のラウンドへの進出者を決定する（800mは除く）。ただし、オープンレーンの競技の同記録者は、全員次のラウンドに進出できる。シードグループの決定で同記録者が出た場合もプラスの決定方法に準ずる。

5. 競技について

- ①競技者に対する助力については、TR.6に準ずる。
- ②短距離種目では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーンを走ること。
- ③次の種目について、下記のタイムを超えて周回を残している場合、競技運営上フィニッシュ地点で競技を中止させる場合があるので、審判員の指示に従うこと。
(男子)5000m 18分 3000mSC 13分 (女子)3000m 13分
- ④男子5000mに出場のチームについては、出場1名につき、1名の周回補助員をつけること。周回補助員は、競技開始10分前には、フィニッシュ付近に集合しておくこと。
- ⑤5000mにおいてはアウトレーンゴールにする。
- ⑥計測記録については下記のとおりとする。

男子	1年	2年
砲丸投	6m00	7m00
やり投	30m00	35m00
円盤投	15m00	20m00

- ⑦三段跳の踏切板は、砂場から1年男子10m00、2年男子11m00、女子9m00の地点に設置する。
- ⑧男女走幅跳・三段跳の競技前練習について、試技順に「公式練習2本」とする。
- ⑨女子棒高跳に出場する競技者は、男子の棒高跳競技終了後から招集開始時刻までの間、棒高跳ピットを使用して練習することができる。
- ⑩走高跳・棒高跳の競技前練習について、試技順に足合わせ1本行った後、事前に決められた高さでの「公式練習2本」とする。
- ⑪フィールド競技における手拍子についてはTOP8以降（走高跳・棒高跳においては上位8位程度）に限ること。
- ⑫トラック競技において、主催者が設置したビデオを判定に使用することがある。
- ⑬フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像を見るために、コーチ席から録画再生機器等を手にとり、その付近で操作する場合に限り、使用を認める。
- ⑭メインスタンド及びバックスタンドにおいて受け渡しをする場合は、指定されたエリアにて、各自で用意をした吊り下げ袋等を使用する場合のみ認める。その際、事故が起こらないようにコミュニケーションをとりながら、安全面には十分注意をすること。また、事故等が起こった場合、主催者は責任を負わない。
- ⑮暑熱対策として、フィールド競技中に氷、飲料などの受け渡しをすることができるが、その際は競技役員を通して、決められた場所で行うこととする。

6. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

	種目	練習	バーの上げ方
男子	走高跳(1年)	1m40、1m65、1m80	1m45—50—55—60—65—70—75—80—83 以降3cm刻み

	走高跳(2年)	1m55、1m75、1m85	1m60-65-70-75-80-83-86-89-92 以降3cm刻み
	棒高跳(1・2年生)	2m00、2m50、3m00、4m00	2m25-45-65-85-3m05-15-25-35 以降10cm刻み
女子	走高跳(1年)	1m10、1m30、1m45	1m15-20-25…40-43-46-49-52-55 以降3cm刻み
	走高跳(2年)	1m10、1m40、1m50	1m15-20-25…40-43-46-49-52-55-58 以降3cm刻み
	棒高跳(1・2年生)	1m70、2m50、3m00、3m50	1m82-2m02-12-22-32-42-52-62 以降10cm刻み

* 同記録による1位(順位)を決定するバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

* バーの上げ方(練習の高さを含む)については、天候等の状況により変更する場合がある。

7. 競技用具について

- ①競技に使用する用具は、棒高跳用ポール以外、競技場備付けのものを使用しなければならない。ただし、やりの持ち込みについては、1人2個以下に限り、当日検査の上、使用を認める。このとき、すべての競技者が使用できることが条件となる。
- ②やりの検査は競技開始の1時間前より40分前までに、100mフィニッシュ側の用器具庫で行う。やりには学校名を記入しておくこと。前回の検査済シールは剥がしておくこと。
- ③スパイクシューズは全天候型のピンを使用し、その長さは9mm以内とする。ただし、走高跳、やり投は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は11本以内とする。
- ④シューズ(スパイク、ランニングシューズ含む)の靴底(ソール)の厚さについては、レース後および競技中に確認することがある。

8. 表彰について

- ①男女別総合優勝には優勝杯を授与して表彰する。
- ②男女別総合1位～6位には賞状を授与する。表彰は3位までとする。
- ③男女別トラック・フィールド優勝校に、優勝盾と賞状を授与して表彰する。
- ④男女学年別総合得点1位～3位までの学校に賞状を授与して表彰する。
- ⑤各種目1位～3位までの入賞者に賞状を授与して表彰する。結果発表のアナウンス後、直ちに玄関ホールに集合すること。
なお、優勝者の部旗の掲揚はおこなわない。
- ⑥男女最優秀選手1名に盾を授与して表彰する。
- ⑦大会新記録樹立者を表彰する。
- ⑧男女別総合優勝校の監督に盾を授与して表彰する。

9. 近畿大会の出場権について

- ①各種目の3位までの入賞者(リレー種目は6位までの入賞チーム)は近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会(和歌山・紀三井寺)の出場権が与えられる。ただし、走高跳・棒高跳は3位までの入賞者3名とし、出場者の決定は1位決定戦と同じ競技方法(ジャンプオフ方式)で行う。

10. 練習について

- ①本競技場練習の時間帯は1日目は7:30～8:40、2日目・3日目は7:20～8:40とする。また、補助競技場の練習の時間帯は1日目は8:00～16:30まで、2日目は7:00～16:40、3日目は7:00～14:55までとする。なお、補助競技場の閉門においては1・2日目は17:00、3日目は15:30とする。
- ②本競技場・補助競技場とも競技場備え付けの用具を使用すること。ラダー、ミニハードル、ゴムチューブ等を使用しての練習は禁止する。
- ③本競技場のレーンの使用は、1レーンは400m以上のスピード練習、2レーンはジョグ専用、3～7レーンは短距離練習、8・9レーンはハードル練習とする。補助競技場のレーンの使用は、1レーンは400m以上のスピード練習、2レーンはジョグ専用、3～6レーンは短距離練習、7・8レーンはハードル練習とする。
- ④補助競技場の跳躍練習について、助走練習のみ可能とする。ただし、使用する者で準備・片付けをすること。マットや踏切板の使用はできない。
- ⑤投てき練習(メディシンボール等を含む)は、競技場の内外を問わず一切禁止する。
- ⑥ウォーミングアップは補助競技場および室内練習場で行うこと。2階・3階のスタンド通路、本競技場通路や駐車場周辺でのウォーミングアップは禁止する。
- ⑦室内練習場は、短距離系のスピード練習と長距離のジョグは混在しないように注意すること。また、走る方向は彦根城側から大型スクリーン側とする。砂場は使用不可とする。

11. 結果発表と抗議について

- ①競技結果については、場内スクリーンに「OFFICIAL」と表示され、アナウンスされた時点を正式発表とする。
- ②発表された結果に対する抗議は、競技規則 TR8 に定められている時間内(同一日に次ラウンドが行われる場合にはアナウンス後 15 分以内、それ以外は 30 分以内)に、競技者自身または代理人が、TIC の担当総務員に口頭で申し出ること。審判長が再度検証し、担当総務員を通じて裁定を伝える。

12. その他

- ①競技会開催中における怪我については応急処置の他は責任を負いません。充分注意すること。
- ②各校、事前に決められた場所を使用すること。テントはメインスタンド、サイドスタンドは禁止する。バックスタンドは可とするが、風で飛ばないように設置すること。各自、各チームが出したごみは持ち帰りを基本とする。各チームで使用した

場所は責任をもって清掃し、競技場の環境美化に努めること。

- ③貴重品、荷物類は各自で管理し、盗難等に十分注意すること。
- ④各校の荷物は、すべての競技が終了したのちに、室内練習場に置くことができる。
- ⑤競技場外でのテントの設営を禁止する。
- ⑥横断幕の設置は、サイドスタンドおよびバックスタンド最前列手すりとする。
- ⑦大会で撮影した画像・動画等をSNS等へ投稿しないこと。
- ⑧スタート地点など、撮影禁止エリアでの撮影は認めない。審判員の指示に従うこと。
- ⑨メインスタンド・バックスタンドから投げ渡し等、危険な行為はしないこと。また、メインスタンド・バックスタンドで競技中の選手のサイドスタンドへの移動はしてはいけない。